

徒然コラム

ベトナムの国花は「蓮」ですが、それはどのような理由に基づいて制定されたのでしょうか。今回は、「蓮」とベトナムの関係について詳しくご紹介します。



突然ですが、日本の国花は何でしょうか。一般的に、菊や桜を思い浮かべる方が多いと思います。実は、日本には法定された「国花」というものはないそうです。東京都は「ソメイヨシノ（桜）」、大阪府は「梅」と「サクラソウ」（「サクラソウ」は埼玉県の花でもあります）を自治体の花としていますが、日本の各地方自治体は、様々な種類の花を、象徴する花として制定しています。広島県は、非公式ながら「もみじ」らしいですが……。オランダの国花、「チューリップ」は有名ですが、日本の新潟県、富山県の花も「チューリップ」です。16〜17世紀のオ



ランダでは、その球根が通貨のように扱われ、大儲けする人もいたそうです。しかし、のちにその値打ちが崩れ、バ

ブルははじけました。今も昔も、人間は面白い生き物です。

さて、日本で今一番技能実習生が多い国、ベトナムの国花を御存じでしょうか。それは「蓮」です。どうして「蓮」がベトナムの国花になったのでしょうか。

ベトナムにとって、「蓮」は特別な意味を持った存在です。ベトナム航空の公式ロゴマークは「蓮」の花であり、機体にもデザインされています。ベトナムの女性が着るアオザイにも「蓮」



が描かれているなど、ベトナムの色々とところで目にすることが出来ます。仏教では、「蓮」は知性や慈悲の象徴で、死後の極楽浄土に咲く花とされ、お釈迦様の台座も「蓮」の花です。「蓮托生」（注・1）という言葉の語源であることから、「蓮」は清らかで神聖な花であるということが分かります。2013年、「蓮」が正式にベトナムの国花として制定されたことには、以下の3つの理由があるとされています。第一に、「蓮」の花はベトナム人の理想の姿を表しているということです。「蓮」の花は汚れた泥の中で咲きますが、花が咲いたところの水は綺麗になります。